

山羊の糞

森岡 正作

白木蓮の

簪のやうな梅が枝 嬰生まる
文机にルーペ耳搔き 山笑ふ
山羊の糞 ぼろぼろ 転び草青む
麦踏みり 長塚節の地を 踏みり
若き日に 遡りたき 雪解川
片隅に 地鶏固まる 春疾風
不機嫌な まま飯蛸の 茹で上がる

我が家の白木蓮が蠟燭の炎のよう
な白い蕾を直立させている。もうす
ぐ開花の時を迎えると思うと、これ
から三、四日は落ち着かない日々と
なる。言わば咲き初めの白木蓮を見
たいのである。油断すると気がつく
頃にはかなり咲いてしまい気怠い感
じになってしまう。「春眠暁を覚
えず」とは言え、ここ数年春になると
やけに目覚めがよい。今年こそ二、
三個の花が開いたばかりの白木蓮、
それも春暁の姿を拝みたいと願って
いる。

登四郎先生に（白木蓮の純白とい
ふ翳りあり）という句がある。疾う
に先生は私が白木蓮に危惧するところ
の「翳りあり」に気づかれておら
れる。白木蓮は神々しいほどの美し
さを持っているものの、その「純白」
は純白さゆえに昼の日に傷みやす
い。蛇足ながら拙句集『風騷』に載
せた（咲き初めは千手の祈り白木蓮）
は夢見心地に賜った句である。